

AJ

ADA

SUIKEI CREATOR

Yusuke Homma
Daichi Araki
Kota Iwahori
Daisuke Inoue
Hayato Ochi
Naru Uchida



295

vol.

AQUA JOURNAL
Nature Aquarium
information magazine

MAY.2020
100YEN



SPECIAL FEATURE ADA水景クリエイター

特別企画 ADA EVENT REPORT 第2回
「生きたアート展「巨大石組レイアウト」に挑む 一清流の石景ー」

みずくさFOCUS 第30回
「佗び草50の魅力」

ネオグラス エア スタイル #18
Plant Art Studio #30



ADA SUIKEI CREATOR

SPECIAL FEATURE

ADA水景クリエイター



天野 尚が創出したネイチャーアクアリウムの哲学や技術は、現在、ADAのネイチャーアクアリウム・クリエイターに引き継がれています。ネイチャーアクアリウム・ギャラリーで展示され、AJをはじめとしたアクアリウム専門誌で紹介されている水景やアクアテラリウムの作品を制作しているのは彼らなのです。NAクリエイターはADA社内における資格であり、誰でもなれるというわけではありません。今回のAJでは、現在活躍中の6人のNAクリエイターにスポットを当て、彼らが日々どのような思いで作品の制作に取り組んでいるのか、そして将来的に何を目標としているのか、飾り気のない本心に迫ります。

これからも写真撮影と
新たな創作に挑み続けたい
水景制作を軸として

生き物の棲家として捉える
今では世界中でネイチャーアクアリウムが楽しむようになりましたが、これだけ多くのアクアリストたちの共感を呼んだのは、自然の生態系を手本とし水槽の中に魚が棲む環境をつくり、しかもそれを美しい景観として表現したことによったように思います。私自身もその考え方方に深く共感し、天野が制作する水景や風景写真に憧れ、助手を勤めながら多くのことを学んできました。今、水景クリエイターとして水景を制作するときに大事にしているのは、そこに棲む生き物のことを考えることです。子供のころ小魚やカブトムシを捕まえてきては、それらが隠れる場所をつくって飼育していたのも、子供ながらに生き物の棲む環境について考えていたからだと思います。その気持ちは今も子供のころから変わっていないような気がします。ネイチャーアクアリウムを通じて生き物が棲む環境をつくるという考え方をもっと広めていきたいと考えています。

天野との思い出

国内外の撮影に同行し寝食をともにしてきた。旅先では危うくダムに落ちそうになったり、原住民に囮まれたりと思い出も多い。

広がっていくNAホビーの世界

20年前に世界水草レイアウトコンテスト(IAPLC)が開催されたことによって、水草レイアウトのスタイルの幅は大きく広がり急速に発展してきました。私も主催者側として毎年、世界中から送られてくる作品をパーティーで拝見しますが、その水景をつくり出す情熱と創造力そして作品レベルの高さにいつも敬服しています。天野がコンテストの名称をネイチャーアクアリウムコンテストではなく、水草レイアウトコンテストにしたところもホビーとしての広がりをいつそう強めたのではないかでしょうか。今後も新しい世代のアクアリストが増え、さらに水草レイアウトは進化していくと思いますが、その表現がより洗練されたとしても、生き物が棲む環境の再現ということは絶対に忘れてはいけません。これまでの20年の進化、そしてこれからの進化がとても楽しみです。

感動が創造力になる

私は普段から風景撮影を趣味としています。自然の中で風景写真を撮っていると、さまざまなもののが細かく見えてきます。岩と植物の配植関係や苔の着生の様子などさまざまなことが、肉眼で観察しているときよりも鮮明に見えてきます。さらに構図の取り方ではファインダーの四隅をしっかりと見ることで、画面ができるだけシンプルにし伝えたいことが伝わるように配慮していますが、それは水景を制作しているときも同じで、スクエアの枠の中に空間とバランスを考え水景イメージが伝わるように考えています。自然の中できれいなものを見たり、素晴らしい景色



ワークショップでの交流

最近は国内外でワークショップを行う機会が多くなった。ADAファンとの交流にもなって楽しい。

見たときの感動は撮りたい、知りたい、というパワーになります。天野の撮影に同行したときに「感動しろ!」と言われた言葉は、今でも私の心中で響いています。

挑戦し続けたい

4月18日からグランフロント大阪で開催される「NATURE AQUARIUM~生きたアート展~」では、水景クリエーターの作品が展示されます。今回のメイン水景となる3mの石組作品は私が制作させていただきました。天野作品に対するオマージュとして、天野が収集していた八海石による三尊石組を作りましたが、私の中では3mという水槽サイズでの石組レイアウトは大きな挑戦もありました。配石も悩み苦労しましたが、新潟~大阪間での水景管理面も苦労が絶えませんでした。しかし何とかチーム一丸となり制作、管理を進めてきました。ADAとしては関西初の大型イベントとなり、会場では生きた水景を存分に楽しんでいただきたいと思います。



大判カメラへの憧れ

天野が愛用していたエボニー5×7で風景写真を撮る。シャッターを切る度に天野が言う大判フィルムに記録する1枚の大切さを知る。



つくり続ける

水景クリエーターとして水景をつくり続け、一人のユーザーであり続けたい。



「水はめぐる」

最近はジャングルプランツを多用したアクアテラリウムなども制作し、より幅広いレイアウトの楽しみ方を提案している。水辺環境は多様な生物が共生する場所であり、自然感も高く制作テーマとしても面白い。

本間 裕介(45)

Yusuke Homma

ADA SUIKEI CREATOR

1993年よりADAに勤務し、水景クリエーターのリーダーを務める。天野 尚の撮影助手やレイアウトアシスタントとして経験を重ね、自らも写真撮影と水景制作をこなす。さらに天野譲りの酒豪といいたいところだが下戸。



「伝える」ことの喜びと ワーキングショップで感じた 最後の世代としての役割

リスボンでの4年間の経験

世界最大のネイチャーアクアリウムとして知られるポルトガルのリスボン海洋水族館に展示中の「水中の森」プロジェクトに初期から携わり、2015年1月には天野尚率いる制作チームの一員として現場作業にも加わり貴重な経験をさせていただきました。制作後はそのまま現地に残り管理スタッフのリーダーとして4年半以上の期間、水景のメンテナンスに携わってきました。今ではノウハウが確立されたネイチャーアクアリウムですが、あの水槽は40mという規格外の大きさでしたので、初期はうまくコントロールできずさまざまな問題に悩まされました。大幅な



ワークショップでの経験

英語でのワークショップはプレッシャーもあったが、その後の自信にもつながった。これからはもっと世界に向けて視野を広げたい。

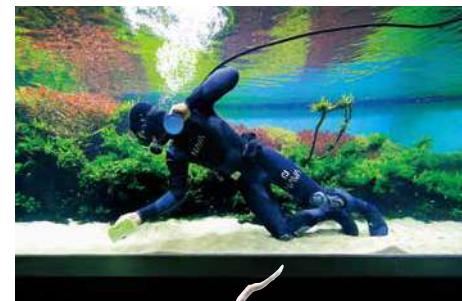
減光やろ材の変更などを含めた改善策により、何とかオープン前に水景コンディションを持ち直すことができました。そして2015年4月のオープニングセレモニーの際には、もうポルトガルへの渡航は難しいと仰っていた天野社長が来られ「よくやったな」という言葉を頂きました。この日が私と天野社長が話した最後の日となってしまいましたが、この言葉は今でも心に残っています。ただ本当に苦しく大変だったのは、この後のことでした。異国の文化や言語による壁、日々のしかかる問題はもちろん自身のモノサシだけで天野尚の最後の大作となった巨大水景を日々美しく保つというモチベーションの維持など、すべてがプレッシャーとなり自分を見失いそうになることもあります。そんな日々が4年続き、毎日のように思い悩みましたが、本当に得難い経験ができたと思ってます。こうしたリスボンでのすべての経験が国内外でのワークショップや専門学校での講師など、今の仕事の多くのことにつながっていると感じています。

AMANO最後の世代で思うこと

私は愛知県の生まれですが、高校生のときにネイチャーアクアリウムに憧れてADAのある新潟に行くことを決意しました。そしてADA入社後は、リスボン海洋水族館やすみだ水族館、ネイチャーアクアリウムギャラリーでの水景制作など、短い年数ではありましたが天野社長の間近で多くのことを学びました。今改めて思うとちょうど私の年代が天野作品に触れた最後の世代なのだと思います。あのころ憧れていたネイチャーアクアリウムを、現在はADA水景クリエイターとして私が伝える立場の一人になっていると考えると少し不思議な感覚もありますが、最後の世代として意志を受け継ぎ、私なりにネイチャーアクアリウムを進化させて世界のホビリストに魅力を伝えていきたいと思っています。



天野から託された思い
オープニングイベントを終え「水中の森」の前で、その後の管理ポイントを天野直伝で教わった。管理では潜水作業も行う。



「ロータスの水中景観」
レイアウトの要所は基本的に従いながらも、自分なりにネイチャーアクアリウムを消化した独自の表現を追求していきたい。

荒木 大智 (27)
Daichi Araki
ADA SUIKEI CREATOR

リスボンでの生活をきっかけにポートワインを嗜み、英会話の習得に日々勤しんでいます。最近はジャングルプランツにも興味を持ち、レイアウトスタイルの幅を広げることを目指すADA入社8年目となるnice guy。



リスボンの思い出
異国での生活は苦労も多かったが、何物にも代えがたい経験にもなった。勤務最終日には水族館スタッフが送別会を開いてくれた。



DOOAによる 水と植物の世界に 無限の可能性を感じる

DOOAでの新しいスタイルの提案

DOOAブランドでは水草ミストウォールを始めとした新しいレイアウトスタイルの提案をブランドミッションの一つとしていますが、この水草ミストウォール開発の発端は、天野尚が「化び草で壁面を緑にしたい」という言葉から動き出した開発プロジェクトでした。DOOAブランドスタート時の最も特徴的な製品であつた化び草ウォールでの水草の楽しみ方は、独自性の高い新しいスタイルでとてもユニークでした。さらにネオグラスエアの水槽デザインやシステムテラ30でのスタイルリッシュなアクアテラリウム、そして最近ではベゴニアや小型着生ランなどもジャングルプランツシリーズの生体製品として発売し、高湿度環境を好む熱帯植物をレイアウトで楽しむパルダリウムスタイルにまでラインナップを広げてきました。私たちADAがここまで楽しみ方の幅を広げた理由はとてもシンプルで、水草を含む熱帯植物の魅力をもっと多くの人に伝えたいと思っているからです。私が水景クリエイターを目指したのも、それを伝えることに使命感を持ったからです。これからも新しい提案を、より多くの方々に届けられるようDOOAブランドを発展させていきたいと思っています。

花瓶に花を飾るような感覚を

アクアリウムやアクアテラリウムと聞くと、

一般的にどこか難しい、面倒というイメージが付きまとっているに思います。確かにそうした一面はありますが、自分としては花瓶に花を飾るような軽い感覚が欲しいと思っています。ネオグラスエアに化び草エキノドルスMIXを置き、少し浮き草を浮かべるだけでも十分に素敵ではないでしょうか。ネオグラスエアで小さなパルダリウムをつくって部屋に飾ってみるのも楽しいでしょう。ADA NATURE AQUARIUMブランドが、ネイチャーアクアリウムを極める本格志向なのにに対し、DOOAブランドではもっと気軽に楽しめる提案もしていきたいと思っています。また植物の表現や魅力は未知数ですが、どういう楽しみ方についても不自然な配植はナンセンスで、水草もジャングルプランツもそれぞれの自生環境の様子を考えて配植、育成し、その植物が持つポテンシャルができるだけ引き出しあげたいですね。私もまだまだ勉強しないとですね……。

人々と水草の距離感

今では、オフィスや商業施設に植物が積極的に取り込まれていて人々の生活と植物とは、とても近い関係にあるようになりました。今は陸上植物がまだ主流となっていますが、私としては水草を含めた植物ディスプレイの提案を推し進めていきたいと思っています。一概に植物と言ってもその種類は幅広く、これからは陸上、水中という境界はボーダレス化し、いろいろなレイアウトやディスプレイによってインドアグリーンが楽しめるはずです。水と植物は観賞的にもとても相性がよく、今後もますます注目されていくでしょう。そのような中で、DOOAが提案する楽しみ方は、人々の生活空間と水草を含む植物との距離をさらに近づけるものになると強く感じています。



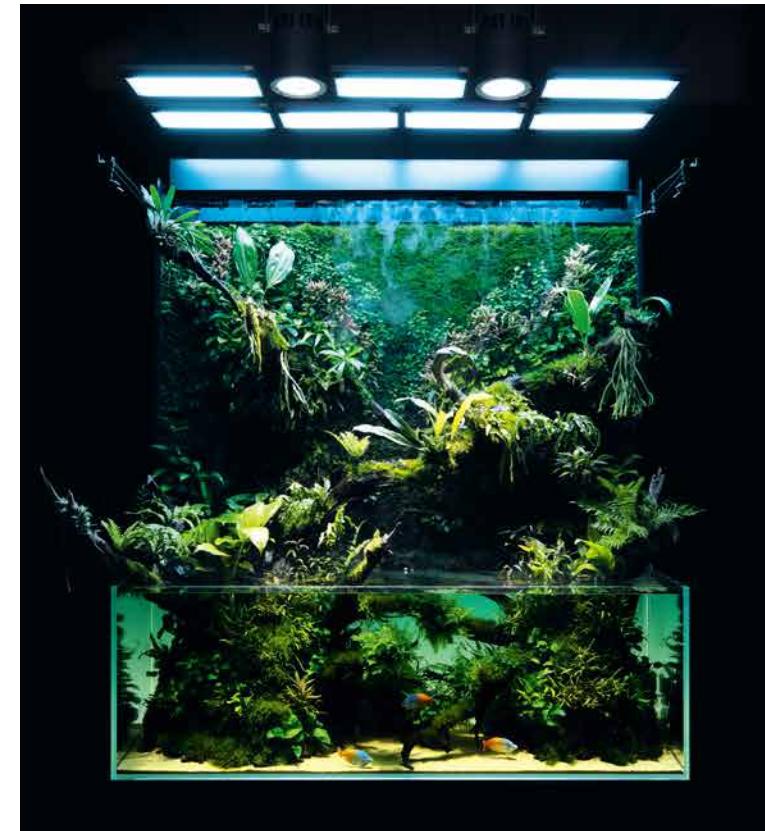
DOOAワークショップ

DOOAのワークショップでは、新しい楽しみ方の提案だけに、プロアマ問わず初めての方ばかり。できるだけ丁寧な説明を心掛けている。



インド南西部での フィールドワーク

雲霧林で出会ったこうした光景が、テラベース開発のきっかけとなつた。また着生植物の自生環境を見ると、ミストシステムは欠かせない。



「着生の世界」

ウォールスタイルのレイアウトでは、着生植物が活躍する。シダや苔などの他にランの仲間を取り入れると、花も楽しめ華やかさも増す。

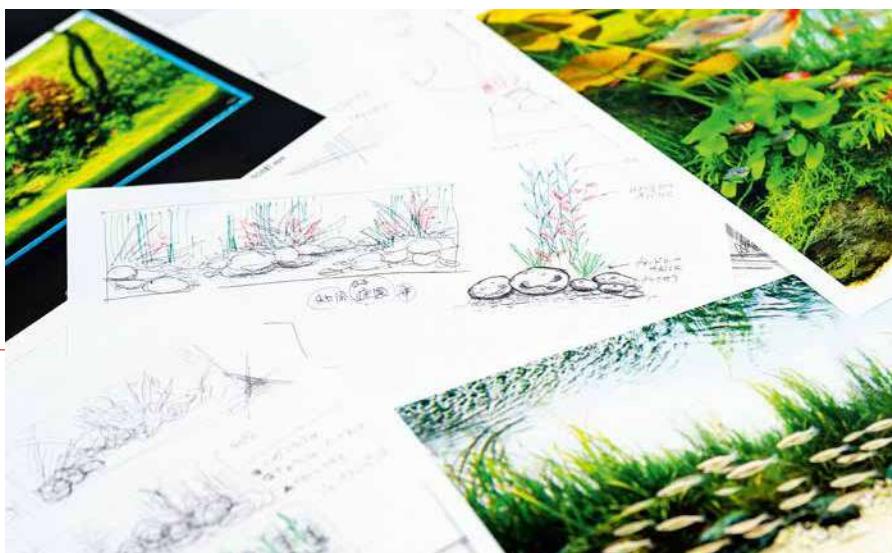
岩堀 康太(32)
Kota Iwahori
ADA SUIKEI CREATOR

入社9年目、二児の父。水草はもちろん、山野草からサボテンまで植物は多岐に渡り楽しむ。ブームはアロエの仲間。渓流釣りも好きで、そのとき自然の中で飲むコーヒーは格別という。携帯するコーヒー豆はインドモンスーンとアラビカ神山。



目標を定め水景をつくり
ノウハウや魅力を
世界へと発信していく

撮ることで覚えたノウハウ
私は普段の業務では動画の撮影や編集をメインに仕事をしています。だから本来は水景をつくる側ではなく、撮る側の人だったんですね。それがなぜ今水景クリエーターになっているかというと、私はビデオカメラを通じて天野 尚の水景制作を見ていたことが影響しています。動画で撮り続けていてさらにそれらを編集するわけですので、自ずと天野 尚のレイアウトテクニックや水景のポイントなどが理解でき、自分でもつくってみたいと思ったのがきっかけとなっています。だから今は自分でつくって、撮って、編集して



水景イメージのラフ
水景を制作する前に毎回コンセプトやテーマ、ラフを書き出し自分の考えを明確化している。

ADA viewとして動画を配信しています。最近では動画の需要も増え、4K動画の水景撮影や、イベントで上映される動画などの制作にも取り組んでいますが、その動画の目的は何かという部分をよく考えてから制作するようにしています。

水景コンセプトの大切さ

水景をつくるときは、自分で設定したテーマに沿って制作しています。自分が表現したいものは何か、それには何が必要かを考え、制作へのぞんでいます。テーマに沿って制作していく流れはデザインに関わる仕事に共通する部分もあると思います。まずは自分が表現したいものを決め、それにはどんな素材、ノウハウでアプローチをするのかを考えてから取り組むようにしています。レイアウトでも目標(コンセプト、テーマなど)を設定することによって、でき上がった水景に説得力が出ると思っています。だから私はレイアウトを見ただけで、何を伝えたいかがわかる水景づくりを目指して制作をしています。

自分らしい水景を表現する

自分が水景クリエイターとして制作を始めたころは、構図のかっこよさ、水草の色合い、見た目のよさにかなりこだわって制作を行なっていました。やはりネイチャーアクアリウムギャラリーで水景を制作するにあたっていい作品をつくらなければいけないという使命感もあり、水景のクオリティについてはかなり悩んでいた時期もありました。しかし、いい水景をつくる、クオリティをあげるという目標は、

不明瞭なものだと気づき、自分の表現したいテーマを目標にして制作する方法にしたいに変えてきました。明確な目標を設定することで、制作時に悩むことも少なくなりましたし、できあがったものが目標に達成しているかが判断できるようになりました。イメージとしては、「無数の点が目標という一つの点に向かって線でつながる」という感じです。そんな水景が自分の中では、いい水景だと思っています。具体的に言うと、説明のできる水景がいい水景だと思います。天野からも、どれだけ自分のつくった水景で語れるかも大切だと教わりました。なぜその構図素材や水草を使つたか、なぜその構図なのか、質問を受けることもあります。そこで、かつこいいから、使いたかったからでは説得力に欠けてしまいますので、すべて説明できるように考え抜いています。説明できる水景は、テーマを表現できていることにつながり、見ただけ何を表現したいのかがわかるいい水景になると自分で感じます。このあたりがロゴデザイナーやポスターデザインのようなデザイン業務の進め方に近いと感じるところです。

水景の魅力を世界に伝える

ADAの水景クリエイターたちは日々、新しい表現を求めて試行錯誤を繰り返しています。水景クリエイターがつくるレイアウトは世界のホビリストから注目されている中、動画制作の観点から、水景のどの部分を伝えたらよいか、どう魅力的に見せられるかを常に考え、発信していくことももう一つ私の仕事の役割だと思っています。



クリエーターミーティング

NAギャラリーやイベントの展示水景を制作する前には、水景クリエーターで集まって方向性などを確認。



クリエイトし発信する

既成概念にとらわれることなく、自由な発想を大切にしている。創造する楽しさも伝えていきたい。



編集作業の日々
ADA viewの定期的な配信のために、日々撮影とその編集作業に常に追われ奮闘している。



「清流にあそぶ」

水景をつくる前にコンセプトやテーマを決めることが大切で、このレイアウトでは夏の清流を原寸大で表現することをコンセプトに制作。その配石から植栽まですべてに理由がある。

井上 大輔 (33)

Daisuke Inoue

ADA SUIKEI CREATOR

映画が好きで伏線を回収していくタイプのミステリーアクションが好き。エレキギターも趣味とし、バーツ交換、電装系グレードアップ、塗装なども手掛ける改造好きでもある。基本的にインドア派で、自然に親しむ機会が少ないことを自省している。

向上心を持ち続け
プロとして人の心に残る
仕事を目指す

人生のターニングポイント

2015年1月末に行なわれたリスボン海洋水族館での「水中の森」制作に携わったことは、私の水景クリエイター人生の中での大きなターニングポイントとなりました。このころの私は、入社間もなくADAで初めてチームで行う仕事であったため、期待感と不安が入り混じった状態で現地入りしたことを今でもよく覚えています。制作が始まると不安を感じている暇がないほど怒濤の勢いで構図が組まれていき、迷うことなく的確になおかつ瞬間に流木の配置を次々と指示していく天野の姿はまるで何かが降りてきたようでした。水槽内に組まれた流木たちは、あたかも自然がつくり出したようで、これがネイチャーアクアリウムの概念にある「自然を創る」ということなのだと肌で感じた瞬間でした。「川を再現する」と銘打ってつくられたこの水景は、水槽内に散りばめられたストーリーを読み取りながら歩き見ることができるネイチャーアクアリウムの完成形の一つであり、私の中のネイチャーアクアリウムを鑑みるうえで欠かすことのできない存在となっています。今でも何かの節目や行き詰ったときにオリジナルのテーマ曲を聴きながら思い返すこともあります。この経験をもとに同年11月には、アトレ浦和に180cm水槽を4本制作し、さらにすみだ水族館に展示されている自然水景の管理スタッフとなり、今は

すみだ水族館の管理責任者として日々大型水槽を相手に業務を遂行しています。

水景管理の難しさ

いかに水草を健康的できれいな状態に育てるか。それはネイチャーアクアリウムの基礎的な部分でもあり、長期に渡り維持管理していく上で一番難しい問題だと思っています。なぜなら照明時間、水質、CO₂の添加量、栄養素のバランス、土壤の状態などいろいろな要因が絡み合い、またそのバランスは日々刻々と変化しながら水草は生長しているからです。そのバランスを見ながら理論的な管理と経験からなる感覚を合わせてメンテナンスを行うことが必要なのです。結果として良い状態に育て上げることができたときに至福の喜びを感じます。条件が難しければ難しいほど解決したときに得られる達成感は大きいものとなります。すみだ水族館では、通常サイズの水槽条件の他にさまざまな条件がさらに加わります。水深があることによる管理作業の難しさもその一つであり、葉を一枚切るだけの作業でも超大型水槽ではかなり困難な作業になるのです。中でも一番苦労しているのが7m水槽のグロッソスティグマの育成です。

管理業務に込める思い

現存する天野自身が制作したネイチャーアクアリウム作品は、水景として残していくことはもちろんですが、それを観賞した方が自然を感じる機会となり、自然に対して少しでも考えるきっかけとなればいいと思っています。現在、管理を行っているすみだ水族館ではリピーターの方も多いのですが、初めて来館され、そのときが最初で最後のネイチャーアクアリウム体験となる方も多くいらっしゃると思います。そんな方々の中にも少しでも何かを残せたらという思いを持ちながら管理を行っています。



思い出の里斯ボン

「水中の森」の制作現場では緊張感もあったが、天野から仕事の流儀を教わった。それが今の仕事にも生きている。



すみだ水族館の管理責任者になった際、私にとってグロッソスティグマの状態が満足のいくものではありませんでした。そこで力チオノフィルターによる水質調整や添加剤の量の調整、トリミングのタイミングや頻度、さまざまなことを試し、現在ではより健康的な状態で維持できるようになっています(ぜひ、見に来てください!)。しかし、これで満足しているわけではなく「より良く、より美しく」をモットーに日々精進することを心掛けています。単純なことですが、これが大切だと思います。



すみだ水族館での日常

エントランスに設置された巨大水槽の管理は毎日夜間に行われる。日々の地道な作業が水景の美しさを支えている。



アトレ浦和とプロントでの仕事

飲食店に設置された水景は、店内の雰囲気を高め、多くの方々にネイチャーアクアリウムを知つていただくよい機会にもなる。



「龍門杉の生命力」

構図はもとよりシダや苔の仲間がどういった場所に生えているのかなどを観察しながら自然を散策するとレイアウトのヒントが見つかる。

越智 隼人 (35)

Hayato Ochi

ADA SUIKEI CREATOR

アクアリウムショップ勤務を経てADAに入社。最近はメダカの飼育にも熱を入れ、すみだ水族館の夜間管理後に餌やりと換水が日課となっている。仕事とプライベートがボーダーレス化しつつある今日この頃。



自分なりの表現を追求
持つて一味違う
これからは遊び心を

管理スタッフとしての仕事
水景クリエーターの仕事は水景をつくるだけではなく、水景を管理することも大切な業務となります。日常の業務としては、むしろ管理作業がメインと言えます。今回の大阪でのイベントでは、私が管理スタッフのリーダーとして会場に常駐することになりましたが、こうした大規模イベントでの管理作業は、基本的に2~3人体制で行いますが、メンバーそれぞれで各作品の意図をよく理解し、管理の方向性を正確に共有していることが大切になります。イベント会場での限られた管理時間の中で、よい状態をキープするためにまずは水槽内の水草の葉一枚まで細かく観察し、

状態の上がり下がりを初期段階で気付くことが大切です。そしてその状況に適したメンテナンスを行うことで常にきれいな状態を維持することが可能になるのです。そうした判断や指示をするのがリーダーの役割であり、今までの経験も活かしよりレベルの高いコンディションの水景をお客様にご覧いただけるよう努めていきたいと思っています。

自然から学ぶ

ADAのスタッフは元来生き物好きのためか、自然に興味を持ち、休みの日などは写真撮影や釣り、自然観察に行くメンバーが多いです。私も入社してすぐに先輩にさまざまな場所へ連れて行ってもらひ自然により興味を持つことができました。今回の大阪のイベントで展示される私の120cm水槽での流木レイアウトも栃木県のスッカン沢渓谷の倒木からイメージを膨らませて制作したものですし、ADAの水景クリエーターとして「自然から学ぶ」というコンセプトを念頭において作品制作に取り組んでいきたいと思っています。

独自の表現を考える

私のレイアウトプランの立て方としては、大きく2つの方法に分けられます。一つは自然に赴き、感動した風景をレイアウトのモチーフとして表現する。もう一つは、流木や石などの素材あるいは水草や魚などの主役を決め、そこからイメージを膨らませていく方法です。しかしこれだけでは、平凡に終わってしまうことがあります。そんなこともあります、最近のレイアウト制作では私は遊び心を大切

にしています。例えば、雲山石は立てるという基本セオリーに反して寝かしてみたらどうかとか、音楽からインスピレーションを得られないかななど。面白目に作り過ぎてしまうと、ただきれいなだけのレイアウトになってしまいがちなので、遊び心を持ってレイアウト制作に取り組んでいきたいと思っています。近年は水草育成用製品の性能も進化してきているため、今まで難しかった水草の育成も容易になり、その分だけバリエーション豊かなレイアウトが誰でも可能になりました。それだけにADAの水景クリエーターとして、どんなレイアウトを提案していくべきかいろいろと方法を探っていきたいですね。



先を読んでの管理

問題点をいかに初期段階で発見し、対応できるかが大切。そのためイベント閉館後の状態チェックは欠かせない。



念願の金剛杉でのイベント

天野が命名し代表作の被写体ともなった佐渡の金剛杉の前でギターを演奏。素敵な仲間と最高のロケーションだった。



イベントの舞台裏

大阪のイベントでは3m水槽は運搬ができないので、2月に大阪に水槽を運び入れ管埋を行ってきた。



「厳しさと寛容の森」

フィールドに出るとリラックスした気分が得られるように、自分がつくったレイアウトで、そこで暮らす魚もそして観賞する人もリラックスできるような水景が理想。

内田 成 (28)
Naru Uchida
ADA SUIKEI CREATOR

ADAに入社して7年目となる大食漢。ギター演奏が趣味で、最近自宅に防音室をつくりアコースティックギターを生音で掻き鳴らしている。生真面目さと爽やかなルックスがイベントでも好評。



シンプルな構図と植栽で魅せる石組の奥深さ

この3m水槽の石組レイアウトは、イベント会場の人の導線を考えて右側に空間をつくることにした。それに合わせ、左側からの強い水の流れと右側からの弱い水の流れをイメージして配石している。石組レイアウトの場合、植栽は基本的にシンプルにするのがセオリーなので、今回はグロッソスティグマ、ヘアグラス、エレオカリス・ビビバラの3種類の水草でシンプルにまとめることにした。グロッソスティグマは一番背が低く、草原のような広がりを感じさせてくれる。ヘアグラスは石と石の隙間を埋めて水景全体に一体感を与え、

時折水に揺れる様子は初夏の爽やかさを感じさせてくれる。また、石の輪郭をボカしてくれるので、硬い石組の印象を和らげる働きもある。そして、背景に植栽した背の高いエレオカリス・ビビバラは、水にたなびき水中感を演出してくれる。石組レイアウトをつくる際には、構図は大胆に迫力を出し、水草は細かく植栽することで強すぎる石の印象を和らげることを心がけている。シンプルな構図にシンプルな植栽で魅せる石組レイアウトの奥深さを、ぜひ実物で味わっていただきたいと思う。

レイアウト制作／本間 裕介



西日本では初の開催となるネイチャーアクアリウム展に向け、総勢7名のADAスタッフがワンチームとなり、3m水槽の石組レイアウトづくりに挑んだ。

ADA EVENT REPORT

生きたアート展「巨大石組レイアウトに挑む —清流の石景—」 第2回（全2回）

写真・文／編集部

植栽



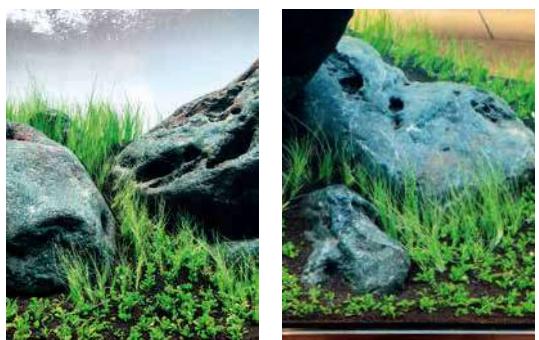
植栽作業は、水草の準備と並行して行われた。水草の量などお互いに声をかけながら、複数のスタッフが一齊に植栽していく。



作業の正確さとスピードが求められる



植栽が終わったら、水の濁りを取り除きながら水位を上げていく。水草が立ち上がるとき景の全体像がより明確になっていく。



植栽後



3m水槽は植栽面積が広く、複数人でも時間がかかるが、植栽は無事完了。4月に公開される時点では水草が繁茂し、植栽直後とはまた違った印象になっていることだろう。

NEXT IS OSAKA

大阪でのイベントに向けた石組レイアウトの制作。前回は3m水槽の搬入から

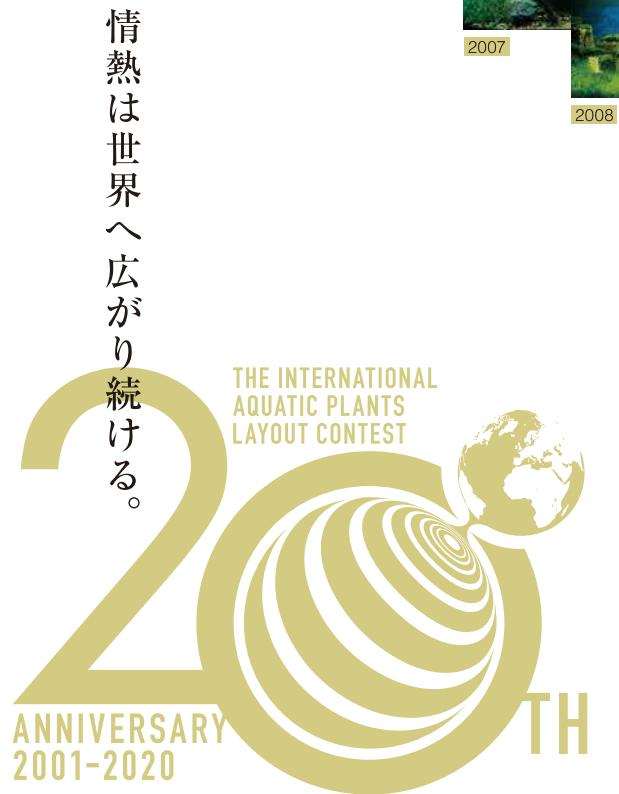
構図づくりまでを紹介したが、今回はいよいよ水草の植栽となる。

構図づくりもそうだったが、植栽も一人ではできない。息の合ったチームワークに注目。



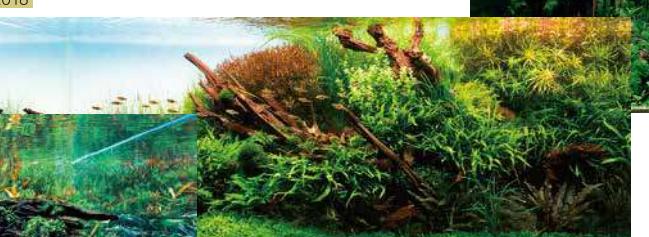
THE INTERNATIONAL AQUATIC PLANTS LAYOUT CONTEST

2019

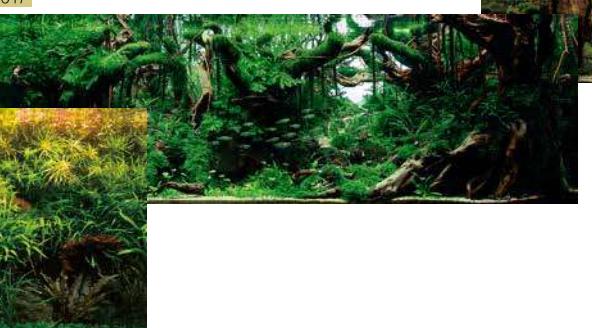


情熱は世界へ広がり続ける。

2018



2017



IAPLC初回2001年から前回2019年までの歴代グランプリ作品。こうして振り返ると、その年のグランプリ作品が次の年の作品のトレンドをつくり出し、続けて見ると大きなうねりのようなものが感じられる。果たして、今年の傾向は？



2019年ネイチャー
アクアリウムパーティーの様子



世界水草レイアウトコンテスト 20年の軌跡

世界水草レイアウトコンテスト (IAPLC) は、2001年、21世紀の幕開けとともに始まりました。天野 尚による発案、主催はADAということで、当初はネイチャーアクアリウムに倣った作品が多く寄せられました。しかし、こうして歴代のグランプリ作品を振り返ってみると、回を重ねるうちにネイチャーアクアリウムの枠から飛び出し、新しいレイアウトスタイルの模索が行われてきたことがわかります。そう、この20年間、IAPLCは水草レイアウトの世界的なトレンドをつくってきたのです。これは、天野の望むところでもありました。このコンテストを企画するにあたって、天野は世界“水草レイアウト”コンテストという名称にこだわっていました。そこには、対象をネイチャーアクアリウムだけでなく水草レイアウト全般に広げることで、水草業界そのものを盛り上げ、さらに水草の楽しさを世界中に普及させたいという狙いがありました。この狙いは見事に成功し、IAPLCの開始当初に比べて水草を楽しむ趣味は世界中に広がり、その趣味人口も着実に増えていることが実感できます。そして、20周年という記念すべき年を迎えた今回のIAPLCは、さらなる盛り上がりを期待しています。現在、世界的に厳しい状況が続いているですが、この20年振り返ってみると今回と同様かそれ以上の厳しい状況が何度もありました。しかし、そんな時でも水草レイアウトは人々の癒しとなり、IAPLC応募者の“情熱”も消えることはありませんでした。ぜひ、今年も皆さんの“情熱”で、世界に元気を届けましょう。

みづくさ

FOCUS

第30回 文・小川 龍司

「佗び草50の魅力」

誰でもカンタンに水草を育てることのできる佗び草には、3つのサイズがラインナップされています。その中から、今回は一番小さな50の佗び草を紹介したいと思います。佗び草50はすべて単植で生産しており、前景や中景に使用しやすいラインナップとなっています。

水 草ファンの誰もが、レイアウトの前景一面にグロッソ スティグマなどの下草が広がる水景を一度は夢見たことがあるのではないでしょうか。また、前景と背景をつなぐ中景の植栽に悩んだこともあるのではないでしょうか。そんなときは佗び草50を使用することで、美しい水景を簡単に実現することができます。ここでは佗び草50のラインナップから、性質の異なる3種類を紹介しましょう。



佗び草グロッソスティグマのランナーでできた緑の絨毯。



「ラヌンクルス・インダタス」
Ranunculus inundatus

一風変わった独特の形状の葉を展開していくラヌンクルス・インダタス。この葉は、水上でも、水中でも、同じ形状で生育するため、テラリウムやバルダリウムへの植裁でも、特徴的な表現を加えられます。

「グロッソスティグマ」
Glossostigma elatinoides

下草の代名詞的存在で、水景で使用されたことで有名になりました。丈夫で育成しやすい、ビギナーにもオススメの水草です。生長がとても速く、盛んにランナーを延ばして底床全体へ増え広がります。

「パールグラス」
Hemianthus micranthemooides

細かいライトグリーンの茂みを形成するパールグラス。適切なトリミングを行うことでボリュームのある茂みを形成します。水槽サイズに合わせて、中景から背景に使用できる応用力のある有茎草です。

佗び草50は、ベースがすべて偏平な形につくられているため、前景に配置する際、底床に少し埋めるだけでベースが目立たなくなります。そして、直径5cmという適度なサイズ感によって、中景部分にも場所を選ばず置きやすく、好みのレイアウトを実現しやすいことも利点となっています。小型水槽でも、大型水槽でも、活躍してくれる佗び草50を、ぜひレイアウトに活用してください。

NEOGLASS

AIR
ネオグラス
エア
スタイル

STYLE #18

水草の絨毯と 見返り美人

Text_Kota Iwahori

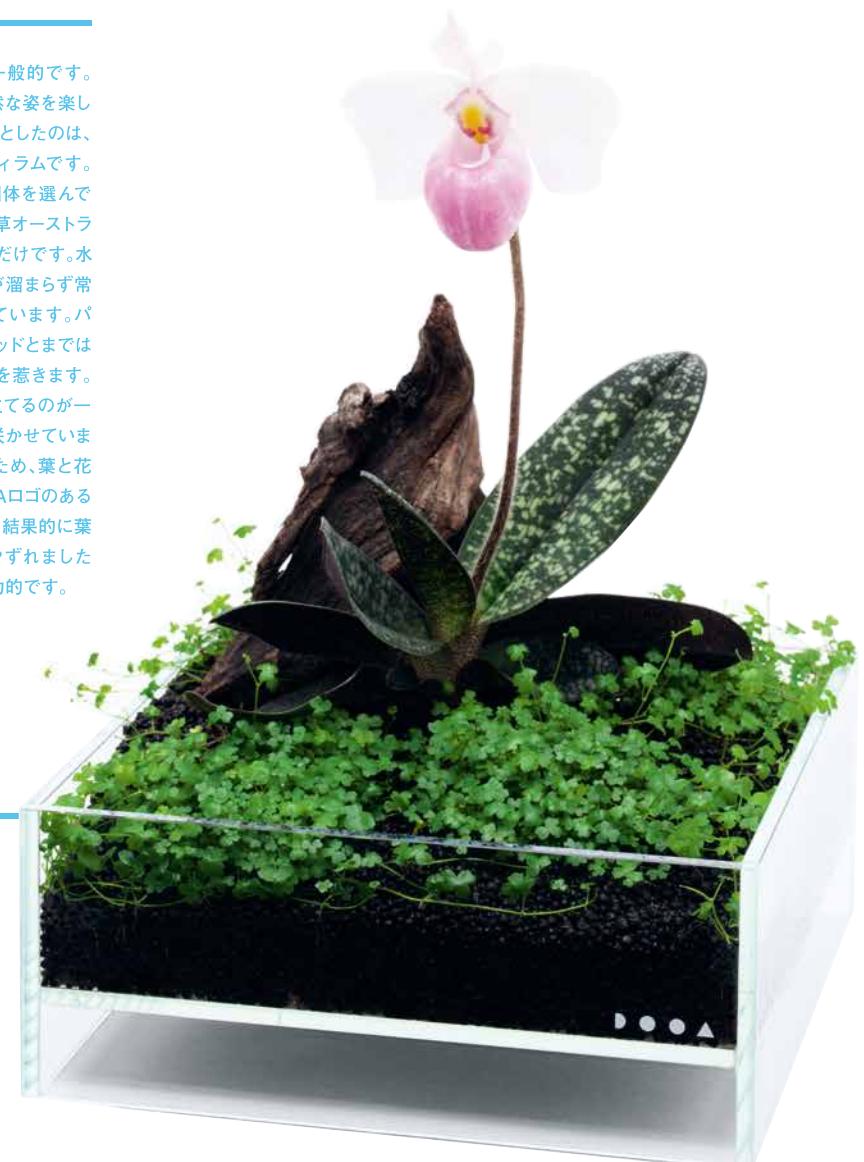
花を飾る場合、切り花か鉢植えが一般的です。今回は花を楽しむと同時に、より自然な姿を楽しめるレイアウトに挑戦しました。主役としたのは、ジャングルプランツのパフィオペディラムです。レイアウトは株元に膨らみを持つ個体を選んで流木に腰掛けるように植栽し、佗び草オーストラリアン・ヒドロコティレを3つ置いただけです。水やりはヒドロコティレに合わせ、水が溜まらず常にソイルが湿る程度に霧吹きをしています。パフィオペディラムは、ジュエルオーキッドとまではいきませんが、葉の独特な模様も目を惹きます。ランは花茎や葉に支柱を用いて仕立てるのが一般的ですが、ここでは自然のままに咲かせています。ただし、水槽には観賞面があるため、葉と花の向きを正面に向けるために、DOOAロゴのある正面から照明を当てて育成しました。結果的に葉は少しだけ傾き、花は正面からややずれましたが、これも“見返り美人”的な魅力です。

DATA

ネオグラス エア W20×D20×H8(cm)
ジャングルゾイル
ジャングルベース

[植物]
佗び草 オーストラリアン・ヒドロコティレ
パフィオペディラム・デレナティ

制作／岩堀 康太



PLANT ART STUDIO

プラント アート スタジオ



水草の中に風景を見る。

Photo & Text／本間 裕介

Tonina fluviatilis

30

INFORMATION



植物の環境流出を防ぎましょう。
環境影響への意識を持ちましょう。

グリーン・マナー

GREEN
MANNERS



私たち的好奇心や探究心を満たし、心を豊かにしてくれる水草やジャングルプランツ。その原産地の多くは熱帯地域など海外であり、一部を除いて日本に自生するものではありません。これからもずっと、植物の緑を楽しんでいくために、ADAは、グリーン・マナーを提案します。

□ 植物による環境影響

水草や観葉植物などが自然界に流出し、本来の生態系に予期せぬ影響を与えてしまうことがあります。購入した植物は水槽内だけで楽しみましょう。

□ あなたが守る身近な自然

繁殖力の高い水草などの植物は、トリミングなどで生じた葉や茎などの切れ端一つでも自然界へ影響を与える場合があります。環境影響を意識して、水切りネットなどを使用し、流出を防ぐように努めましょう。



2020.4/18(土)–6/7(日)
グラントフロント大阪 北館 ナレッジキャピタル イベントラボ

平 日 11:00～20:00 チケットなど詳しい情報は公式ホームページまで
土日祝 10:00～20:00 URL: https://www.tv-osaka.co.jp/event/nature_aquarium/

※開催期間中は最終入場19:30まで

【主催】テレビ大阪／ドリームスタジオ 【協力】株式会社アクアデザインアマノ／ナレッジキャピタル

この春、大阪の中心地・梅田で、関西地方では初となる本格的なネイチャーアクアリウム展を開催します。60cm水槽から3mの大型水槽まで、ADAの水景クリエイターが制作した実物の水景を多数展示。そのほか、ネイチャーアクアリウムの創始者・天野 尚撮影の風景写真や、最新の映像作品もご覧いただけます。皆様、ぜひ会場で“生きたアート”をご覧ください。

STAFF CREDIT

AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD.
©2019 Printed in JAPAN

Publisher

天野 しのぶ

NATURE AD DESIGN

Art Direction

天野 しのぶ

丸山 悟司／市川 亮／板橋 広夢

Published by

株式会社 アクアデザインアマノ

Printed by
株式会社 山田写真製版所

<https://www.adana.co.jp>

NEXT AQUA JOURNAL

JUN.2020 vol.296 / 2020年5月10日(日)発売予定

アクアジャーナルの情報は一部、
ADAホームページで公開しています。

Hello, New Chapter.
夢の扉をひらけ。

2020
THE INTERNATIONAL
AQUATIC PLANTS LAYOUT CONTEST
20th Anniversary

THE INTERNATIONAL AQUATIC PLANTS LAYOUT CONTEST

世界水草レイアウトコンテスト2020 応募締切 2020年5月31日 グランプリ賞金 100万円 CLOSING DATE May 31, 2020. GRAND PRIZE JP ¥1,000,000- www.iaplc.com

Cosponsored by 「AKVARIUM Zive」Czech Republic / 「AQUA JOURNAL」Japan / 「AQUA LIFE」Japan-South Korea / 「AQUAmag」France / 「Aqua magazine」Brazil / 「AquaNet」Chinese Taipei / 「Aquaristik」Germany / 「Practical Fishkeeping」UK / 「The Aquatic Gardener」U.S.A. / 「TROPICAL FISH HOBBY」U.S.A. / 「The Fishkeeper」South Africa

DA Authorized Contests

